

## 風に吹かれて

教育相談専門員 沼波かおり

昨年、ノーベル文学賞はボブ・ディラン、と聞いて思い出したことがある。

今から30年くらい前、「不登校」がまだ「登校拒否」と呼ばれていた時代。現在より数は少ないが、今と同じようにクラスや集団になじめない子たちがいた。でも世間での認知度は低く、教育の現場でもなかなか理解が進まず、たいていの登校拒否は、家庭でのしつけ、育て方に問題があるとか、本人がなまけているだけで資質に問題がある、とか言われていた。

ちょうどそのころ、「教育相談係」になった私は、相談室の同僚と二人、校内でもなかなか理解してもらえない「登校拒否」に対する考え方と、文字通り闘う毎日だった。何とか支援の方法はないものか、どうしたら本人の思いに近づけるか、試行錯誤しているうちに年度末を迎え、進級できず退学していく生徒を見送ることもたびたびあった。そんなとき「何人学校を辞めたら、登校拒否を認めてくれる世の中になるのかなあ」とため息まじりにつぶやくと、同僚が「まるで風に吹かれてだね」と言ったのだった。

「風に吹かれて」・・・ボブ・ディランを一躍有名にしたヒット曲。もともとは反戦のイメージが強い曲だが、今、じっくり歌詞を読むとなかなか味わい深い。

**どれほど道を歩けば一人前と認められるのか／どのくらい飛び続ければ白いハトは 砂浜で休めるのか／どれだけの砲弾が飛び交えばそれをやめさせることができるのだろうか／友よ、その答えは風に吹かれ続けている・・・**

あのころと比べれば、格段に理解がすすんだ「不登校」。平成の時代になって、当時の文部省が「登校拒否は誰にでも起こりうる」と発表してからは、教育現場でも「チーム支援」が可能になった。冷たく吹いていた風も、少しだけやさしくなった気がした。それは、あたりまえの支援も受けられず、「学校」から去って行った多くの子どもたちのおかげだ、と今しみじみ思う。



\* \* \*

あけましておめでとうございます。新しい年が、みなさまにとって、良き学びの日々でありますように。

### ☆ カウンセラーの先生方が来校されます ☆

本校には次のカウンセラーの先生方が毎月来校されます。「辛いけれど、どうしていいかわからない」という人、「よく眠れない」「食欲がない」「体調が良くない」などの症状がある人は、ぜひ先生方に相談してみてください。秘密は守られますので安心してください。

《カウンセラーの先生と1月の相談日》

- 沼波 かおり先生 (本校教育相談専門員)  
毎週火曜日、木曜日 午後1時～6時
- 堀 智哉先生 (各務原病院 臨床心理士)  
毎週月曜日、金曜日 午後7時～9時
- 鷺見 栄子先生 (社会福祉士)  
1月10日(水)、17日(水)、24日(水)、31日(水) 午後4時～6時

☆生徒のみなさんへ…面談は予約制です。HR担任、教育相談係(教育相談室:本館3階)、養護教諭(保健室:本館1階)の先生のいずれかに申し込んでください。

★保護者の方へ…カウンセラーの先生との面談は、保護者の方のみでも受け付けます。お申し込みは、定時制教育相談係(長瀬・服部・松原)までお願いします。

電話番号は(058)275-7185です。どうぞお気軽に申し込んでください。

★本校の特別支援教育コーディネーターは、服部と松原です。何かございましたら、遠慮なくご相談ください。